

〇2 先史時代の北海道における人類と鯨類との関係について

〇横山英介（〔私〕北海道考古学研究所）・平口哲夫（金沢医科大学）

The relationship between human and cetacean in the prehistoric age in Hokkaido.

Eisuke Yokoyama (Private Office of Hokkaido Archaeology), and Tetsuo Hiraguchi (Kanazawa Medical University).

北海道の先史時代人が鯨類とどのような関わり方をしていたかを時期別に概観し、捕鯨国ニッポンの原点が北方においてどのようなものであったかを知ることができるとしたい。

【縄文文化にみる鯨類】

- 1) 時期：北海道先史時代人と鯨類との関わりを示す遺跡は、縄文時代前期までさかのぼる。関連遺跡は中期末から後期前葉にかけての時期に増加する。
- 2) 地域：津軽海峡東岸域から噴火湾沿岸域にかけて関連遺跡が多い。そのほか、釧路湾岸域、網走湾岸域、礼文島海域、積丹半島西部海岸域などに小遺跡の集中がみられる。
- 3) 利用：直接証拠としては、骨器の素材があげられる。骨に残る解体痕のあり方から肉利用が推定される。当然のことながら油脂も食料や燃料に用いられたことであろう。骨器はモリ先などの漁具だけでなく、「刀形」製品などの儀器にも多用されており、鯨類と祭祀との結びつきを示唆する。特に内陸遺跡において、その可能性が強くうかがわれる。
- 4) 祭祀：東釧路貝塚のイルカ頭蓋骨配置例と北黄金貝塚出土の「刀形」製品などが典型的。
- 5) 捕鯨：イルカ漁だけでなく、漁具と半構造船からクジラ漁の可能性も考えることができる。

【続縄文文化にみる鯨類】

- 1) 時期：前半期・恵山文化に色濃くみられる。
- 2) 地域：津軽海峡東岸域から噴火湾沿岸域に関連遺跡の集中がみられる。
- 3) 利用：内陸遺跡での出土例は、後述するオホーツク文化の遺物が相伴している事実と照らし合わせて、交易によってもたらされた可能性が高いと考えられる。
- 4) 祭祀：特に骨器の存在から鯨類を含む動物儀礼が広く行われていたとみられる。
- 5) 捕鯨：モリ先などの漁具は、イルカ漁だけでなく、クジラ漁も行われていた可能性をうかがわせる。

【擦文文化にみる鯨類】

- 1) 時期：特に後半期の遺跡に出土例がある。
- 2) 地域：海岸域にはほぼ全道的に関連遺跡が点在する。
- 3) 利用：火処から焼けた鯨骨が出土する事例は、鯨骨が燃料としても用いられたことを示唆する。また、青苗貝塚からは加工途上の鯨骨を含む多量の鯨骨製品が出土している。
- 4) 祭祀：明瞭な事例に欠ける。
- 5) 捕鯨：特に青苗貝塚では、ニホンアシカなどの鰭脚類を含む海獣類を活発に行っていたようだ。モリ先などの漁具はその一端を示している。

【オホーツク文化にみる鯨類】

- 1) 時期：関連遺跡はほぼ全時期にわたってみられる。
- 2) 地域：オホーツク海沿岸域が中心となる。
- 3) 利用：骨器の素材としての利用度はきわめて高い。骨斧などの日用品としても広く利用。
- 4) 祭祀：亦稚貝塚の出土事例が示すように、クマ・海獣儀礼の一環にクジラも加わっている。
- 5) 捕鯨：弁天島貝塚の鳥骨製針入れの捕鯨図が示すように、オホーツク文化人の捕鯨は洗練されたものだった。